プリンセス 小公女セーラ

第45話

『ミンチン院長の後悔』

AR台本

企画 制作 日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第四十五話『ミンチン院長の後悔』

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子
ベッキー…………鈴木三枝
アーメンガード……八百板万紀
ロッティ…………渡辺菜生子
ラビニア…………山田栄子
ガートルート……佐々木るん

ジェシー……………飯塚はるみ
モーリー……………向殿あさみ
ジェームス…………郷里大輔
クルスフォード……
カーマイケル………
カーマイケル夫人…
ラムダス……………
郵便配達夫…………

カメラ	画面	音声
1	ホール　地下入口のあたりに子供達　集って地下の方をのぞき込んでいる ミンチンの鋭い声がかぶる	子供達「……ヒソヒソ……」 ミンチン「さ、言うんです！……一体セーラは何処へ出て行ったんです！」
2	台所前の廊下 ベッキーが泣顔でうつむいている	ベッキー「し、知りませんです！　ほんとに私、お嬢様が何処に行ったのか……」
3	ミンチン　すでにカッカとなって　ピシャリとおさえる	ミンチン「ウソをおつき!!」
4	ベッキーがミンチンの前にひざまづいている　その両わきにアメリア　モーリー　ジェームス　ミンチン　ジロリと二人を見る　ギクッとなる二人	ミンチン「モーリーとジェームスが知らないというのは、これは本当でしょう」 モーリー・ジェームス「!!……」
5	モーリー　ジェームス　目をパチパチさせながら　あいまいに	二　人「……」

	頷く		
6	ミンチン　ベッキー指差して		ミンチン「でも、お前が知らないなんてハズがありますか——!!」
7	ベッキー必死に		ベッキー「ほ、ほんとでございますです！　ほんとに知りませんです！」
8	ミンチン　いきなり殴ろうとして右手をふり上げる		ミンチン「お前はいつも、そうやってセーラのかばい立てを！」
9	ベッキー　首をすくめて手で顔をかばう		ベッキー「アー、お、お許し下さいまし！」
10	アメリアがとめに入る さえぎられながら　ベッキーをにらむミンチン		アメリア「お、お姉様……！」 ミンチン「……！」
11	もみ合う二人—— 地下への階段をおりて来る生徒がいる　ラビニアだ		
12	アメリア気づいて振り返って		

	"ア" となる		アメリア「……ア……」
13	ミンチンもふり向くと　ぎょっとなって　息を抜かれ　振り上げていた手をおろす　アメリアもミンチンをおさえていた手をはなす		ミンチン「……!!」
14	地下入口の前に立つラビニア その後ろにはジェシーやガートルードがいる　T・U		
15	ミンチン　一瞬ゴクッとなって姿勢を正し		ミンチン「……な、なんの用です」
16	ラビニア　ニヤリとしながらベッキーをうかがう		ラビニア「……」
17	ベッキー　ドキドキしながら顔を上げる		ベッキー「……!!」
18	ラビニア　おもむろに一歩階段をおりて話し出す		ラビニア「あの……院長先生にお伝えしたい事

	ラビニア　さも得意げに		が……」 ミンチン「早く仰言い！」 ラビニア「私……セーラの行き先なら存じていますけど……」
19	ミンチン　アメリア　ビックリ		ミンチン「なんですって！」 アメリア「あなたが……！」
20	ベッキー愕然となり祈るようにうつむく		ベッキー「ああ……!!」
21	ラビニア　ゆっくりと話し出す		ラビニア「私……見ていたんです……」
22	セーラが雪の中を隣りの家の玄関に向う		ラビニアの声「セーラが、お隣りの玄関に、そっと入って行く所を……」
23	ラビニア　二階の出窓からじっと見降している		〜
24	ミンチン　ググッと目をむいて		ミンチン「……お隣りへ……」
25	ラビニア　やったりとうなづき		ラビニア「ハイ、院長先生……」

26	スカートをぎゅっと握りしめる ミンチンの後で口唇をかみ うつむいているベッキー	
27	ミンチン　怒りでぶるぶるとふるえている—— 困った表情のアメリア…ミンチンを見つめている　やがて　ミンチンついに　きわまってアメリアにどなりちらすと　つかつかと手前へ	ミンチン「……!!」 アメリア「……?」 ミンチン「アメリア!!　生徒達を!!」 アメリア「……!!」
28	ミンチン　づかづかと階段を上っていく　ラビニアたち　道をあける　おどり場でおれまがる ミンチン	アメリア「お、お姉様……!」
29	ミンチン　階段を上って行く 見送ったガートルードとジェシー　ヒヒヒと冷笑する	ガートルード・ジェシー「……」
30	肩でフフンと笑って	ラビニア「フフッ……」

31	階段をドカドカと勢い込んで上って来たミンチン　手前へ大きく	
32	様子をうかがっていた他の子供達も　あたふたと道をあける ミンチン　つかつかと院長室へ向う	
33	その院長室のドアの前でシーザーがいて　あくびをしている	シーザー「フニャ〜〜……」
34	ミンチン来てシーザーに気づいてムッとなる	ミンチン「!……」
35	ミンチンいきなりシーザーをけとばす　ふっとぶシーザー	S・E（ボカ!!） シーザー「フギャ!!」
36	コロコロッところがってたちなおるシーザー　激しく怒る	シーザー「フニャ!　フギャーッ、フギャーッ」 S・E(off)（ガチャリ、ドアあく音）

38	ミンチン　さっさと部屋の中へいきおいよくドアをしめる 見ていた生徒たち　顔を見合せる		S・E（バターン!!）
38	心配げなアーメンガードとロッティ		アーメンガード・ロッティ「……」
39	院長室の出窓　ミンチンinして 隣家の玄関先をうかがう		
40	クリスフォード家の表に停っている馬車　T・U		
41	ミンチン　顔をひきつらせている		
42	院長室の出窓　ミンチン焦々と 両手を組み　行きつ戻りつしはじめる (off)でドアがあいてアメリアが入ってくるが　ミンチンはそのまま行きつ戻りつしている		S・E(off)（カチャリ……）

43	アメリア　ドアをそっとしめてちょっとうつむきかげんで上目づかいにミンチンを見る	S・E（パタン……） アメリア「お……お姉様……」
44	ミンチン　アメリアのことは気にせず独白的に話す また　ターンして戻りはじめる	ミンチン「……な、なんと云うことを……」
45	アメリア　自分でも考えながら	アメリア「お隣りの家、行ったのが本当だとすると……セーラさんは、一体どう言うつもりで……」
46	シンチン　カツッと止まりキッとアメリアの方を見る	ミンチン「!!……判らないのね?　馬鹿なあんたには?!」
47	アメリア　おどおどと	アメリア「す、すみません……」
48	ミンチン　ヒステリックに手前へやって来て　アメリアをにらみつける	ミンチン「……。図々しくお隣りに押しかけて、あることないこと並べたてて、同情を買おうというコンタンよ。あのセーラのやりそうなことです!」
49	アメリアなりに否定するが	アメリア「そ、そんな、セーラさんが、まさか

	例によってミンチンにピシャリとやられる	……」 ミンチン「あなたは黙って!!」 アメリア「……」
50	指先をアメリアの目線につきたてて	ミンチン「こんな勝手放題を許しとく訳には行きません! 私が行って引きずり戻して来ます!!」
51	アメリア　えっとなる	アメリア「お、お姉様……!」
52	ドアにはりついていた三人 間が少しあってからハッとなって飛びのく	三　人「……!!」
53	コート姿のミンチンがドアを勢いよく開けて出てくる みんなギョッとなる　帽子を持ったままの左手で二階を示す 子供達いっせいに階段へ ミンチン　乱暴に帽子をかぶりながら生徒達の方を見つめて玄関へ	S・E（ガチャ） ミンチン「なにをしてるんです!! みんな部屋へ戻りなさい!!」 一　同「ガヤガヤガヤガヤ……」

54	階段を上って行く生徒達		
55	ミンチン　子供達の動きを見る くるっと向きをかえてそのまま 玄関のほうへ　つかつかと足早 に		
56	アメリア　慌てて呼び止めよう とするが　それ以上追うことは 出来ない　乱暴にドアをあけし めする音がして　アメリアうつ むく		アメリア「お、お姉様!!」 S・E(off)（カチャ……バタン!!） アメリア「……」
57	ベッキーがその様子を見て落ち 込む		ベッキー「ああ……」
58	雪の中を歩くミンチンの足元 フォロー		S・E（ザク、ザク、ザク……）
59	玄関前まで来て　チラッと馬車 の方を見る		
60	馬車の前でチョッと止ってすぐ		

	に向きをかえクリスフォード家の方へ歩いて行く		
61	クリスフォード家のドアノッカーをミンチンの手が荒々しく叩く		S・E（ドンドン!!）
62	ミンチン　ノッカーから手をはなさずに　少し間があって――じろじろと見回す 再び激しく叩いて　こんどは手もはなす		S・E（ドンドンドン!!）
63	応答を待っているミンチン　イライラと顔がゆがむ たえきれずに　もう一度ノックしようと手を出した時ドアの開く音　ミンチンののばした手をヒョイとひっこめる		ミンチン「……」 S・E(off)（カチャリ……）
64	ドアが少し開いてラムダスが顔を出す		S・E（キィ……）

65	ミンチン　異邦人の出迎えにギョッとなっている	ミンチン「……!!」
66	ラムダスも意外そうに	ラムダス「……!」
67	ミンチン　ゴクッとなって手をさげつつ	ミンチン「……あ、あの……私は……」
68	ラムダス　インド風のあいさつをしながら	ラムダス「存じております……」
69	ミンチン　あらっとなって　急に落ちつきをとりもどしてラムダスをジロリと見つめながら	ミンチン「まあ……! 言葉が判るなら、早く御主人に取りつぐように!」
70	ラムダス　軽く会釈してドアの中へ消える	ラムダス「少々お待ちを……」 S・E（パタン）
71	ミンチン　顔をこわばらせる	
72	ボリスがダンロ前で寝ている ドア開く音がして　顔をあげる	S・E (off)（カチャリ……）

73	居間に集まっていたクリスフォード　カーマイケル　セーラ他一同　いっせいにドアの方に向く		一　同「……」 S・E(off)（パタン）
74	ラムダス　ドアノブから手をはなしておじぎしつつ		ラムダス「御主人様……。お隣りのミンチン様がお見えでございますが……」
75	ドキッとなるセーラ		セーラ「!!」
76	けげんな顔するクリスフォード		クリスフォード「……?!」
77	顔見合わすカーマイケルと夫人		二　人「……?!」
78	セーラ　蒼然となって　ゆっくり立つ　そして思わずクリスフォードの方を見る		
79	クリスフォード　セーラに向き微かにうなづいて見せる		クリスフォード「安心おし……」
80	心配そうなセーラとジャネットドナルド		三　人「……」

81	82	83
クリスフォード　カーマイケル夫人に向って カーマイケル夫人　頷いて立ちセーラを促す　ドナルドとジャネットもあとに続く カーマイケル夫人　セーラの片手をとって　ドアの方へと向きをかえる	ラムダス　もう一方のドアに行き　開ける カーマイケル夫人につれられて出て行くセーラ　あとに続くドナルド　ジャネット ラムダス　戸をしめかける	四人を見送ったクリスフォード カーマイケルに呼びかける クリスフォード　カーマイケルを向いて
クリスフォード「では、先程お話したように、この子の着替えを」 カーマイケル夫人「かしこまりましたわ。さ、セーラさん……」	S・E（カチャリ……）	S・E（パタン） クリスフォード「カーマイケル君……」 カーマイケル「は……」 クリスフォード「これで、わざわざお隣りへ出むく手間がはぶけるというものだよ」

84	カーマイケル　心得て		カーマイケル「そのようですね……」
85	クリスフォード　ニコリと笑って　ラムダスに向き		クリスフォード「……ラムダス、お客様を、こちらへ……」
87	手をこすり合わせるミンチン		
88	その手を口元へもっていって 息をふきかける ドアがあく音がする　ミンチン ギョッとなって威厳をつくる		ミンチン「ハァ……!!　……」 S・E　（カチャリ） ミンチン「……!」
89	ラムダスがおじぎをする ミンチン　つかつかと中へ入って行く　ラムダス　ドアをしめる		ラムダス「お待たせ申しました。どうぞ、こちらへ……」 S・E　（パタン）
90	ラムダスがドアを開く ミンチン　勢いよく入り　すましたままズカズカと手前まで来て　はっとなり立停る		ミンチン「……!!」

91	ダンロの前のクリスフォード　カーマイケルと話をしていたらしいが　ミンチンに顔だけ向ける	
92	クリスフォード　自分で車イスの向きをミンチンに向ける　そばには犬もいる	S・E（キキキ……）
93	ミンチンの後で静かにドアが閉まる　ミンチン少しキョロキョロする	S・E（キィ〜〜パタン） ミンチン「……」
94	クリスフォード　犬の頭に右手をのせて撫でる	
95	カーマイケル	
96	すでに完全にのまれているミンチン　あわてて威厳をとりもどす咳払い	ミンチン「……ン、ンン……」
97	ミンチン　威儀を正して云う	ミンチン「はじめまして……私、隣りの女子学

		院を経営致しております、ミンチンと申すものでございます」
98	クリスフォード　微かに会釈を返して　両手で車イスを示し手をひじかけにかける	クリスフォード「クリスフォードです、療養中でしてな。かようなものに掛けたままで、お許し願いたい……」
99	ミンチン　フ〜ンと聞いている	ミンチン「……」
100	クリスフォード　カーマイケル氏を示して	クリスフォード「それから、こちらはカーマイケル君。私の顧問弁護士です」
101	ミンチン　意表をつかれて	ミンチン「弁護士さん……?!」
102	カーマイケル微笑んで会釈する	カーマイケル「……」
103	クリスフォード　少し身をのり出して	クリスフォード「実は、今カーマイケル君を、私の代理人として、そちらへあがらせようと思っていた所でしてな」
104	ミンチン　一瞬ひたいにしわをよせるが　急に笑い出す	ミンチン「なんでございます?!　オホホホ……ご冗談がお上手ですこと……たかが

	まけまいと　フンとなっている が顔がひきつっている	子供一人のことで、わざわざ弁護士さ んをお立てになるなんて、大ゲサすぎ ますですわ」
105	クリスフォード　ミンチンの云 う意味がわからない 再び背にもたれて	クリスフォード「……？　と云われますと…？」
106	ミンチン　水をえた魚のように 急に　ペラペラと話し出す	ミンチン「だって、そうでございましょ？　う ちの生徒――と云いましても、私の思 いやりで、無料で置いてやって参った みなし児でございますけど……。その 子が、のこのこうかがって御迷惑をか けたぐらいで、なにも弁護士さんまで ……」
107	クリスフォード　フーンとなっ て　カーマイケルに向く カーマイケルもクリスフォード に向き肩をすくめて見せる 二人でトボケている	クリスフォード「……?!」 カーマイケル「……？」
108	ミンチン　その様子を見て　と	

	りつくろおうとする感じで ひや汗をかいている		ミンチン「……?!　……そ、そりゃ、勿論、あ の子が私どもの知らぬうちに、こちら へ押しかけました失礼は、私が代って お詫び申すつもりでございますけどね ……」
109	クリスフォード　ちょっととぼ けて確かめてみる		クリスフォード「ふむ……あの子と云われるの は、ひょっとすると……」
110	ミンチン　きっぱりと 自信たっぷりに		ミンチン「勿論セーラですわ！　セーラ・クル ー……。こちらに入り込んだのを目撃 した者があるんでございます」
111	二人とも話がくいちがっていて キョトンとしている　クリスフ ォード　カーマイケルを見て		クリスフォード「ふ〜〜ム…… 君、どうやらこの御婦人はおかしな感 違いをされているようだ。 〜 (off)　冗談などではない事を説明してあげて くれ給え……」
112	こんどはミンチンがキョトンと なる		
113	カーマイケル　頷いてミンチン に向く　クリスフォードもミン チンに向く		カーマイケル「……(頷き)では、ご説明致し ましょう……」

114	カーマイケル　体ごとミンチンに向きつつ　姿勢を正し		カーマイケル「……まず第一に、あなたが迎えに見えられたセーラ・クルーさんは、もう、そちらへは戻らぬ事になったと云うことです」
115	目をむくミンチン　身を前にのり出して右手で自分の胸をたたく		ミンチン「な、なんですって！……セーラにとって住むうちは、私どもの所より他にない筈でございますが!!」
116	カーマイケル静かに首をふって		カーマイケル「……。いや、あなたがうちと呼んでおられる、あの屋根裏には戻りません」
117	カーマイケル　右手で部屋全体を示して		カーマイケル「これからは、このクリスフォードさんのお屋敷が、彼女のうちになるのです」
118	ミンチン　声がうわずって来る		ミンチン「な、なんと云う事を……」
119	カーマイケル少し腰をかがめてクリスフォードを示し		カーマイケル「実は、こちらのクリスフォードさんは、亡くなられたセーラさんの父親、ラルフ・クルー氏の親友で」

120	クリスフォード　表情ひとつ変えない		カーマイケル(off)「インドで共同経営をしてきた世界有数のダイヤモンド鉱山の持主なのですよ」
121	ミンチン　目をギョッと見ひらいて生つばをのむ		ミンチン「世、世界有数の……ダイヤモンド鉱山……！」
122	ミンチンと対照的におちつきはらって目を閉じるクリスフォード　カーマイケル　(off)で続ける		クリスフォード「……」 カーマイケル(off)「そして、クリスフォードさんは」
123	ひじ掛けを中指で静かに叩くクリスフォード		カーマイケル(off)「預って来たクルー氏の莫大な財産」
124	カーマイケル　再び姿勢を戻して云う ラスト　再びクリスフォードに目をそそぐ		カーマイケル(on)「つまり、鉱山の権利、半分をセーラさんに渡そうと、これまで行方不明だった彼女を必死に探して来たのです。いや、そればかりか、後継ぎのないクリスフォードさんは」
125	目を閉じたままのクリスフォードにゆっくりT・U		カーマイケル(off)「セーラさんを自分の後継ぎとして、残りの全財産を彼女に譲る決意

		をし、先程、この私の手で、法律的に決定したのですよ」
126	ミンチン　ガタガタとふるえ出す　T・U	ミンチン「…………で…………では……」
127	もう歯の根が合わない やっとしゃべっている	ミンチン「セ……セーラは……世界有数のダイヤモンド鉱山の持主に……」
128	カーマイケル　UP 強く	カーマイケル「その通りです……。彼女は、今や、本当のダイヤモンド・プリンセスになったのです」
129	ミンチン　声が出ない ふるえる手と口	ミンチン「……」
130	ふるえながら左手をもちあげる	ミンチン「……」
131	ふるえながら両手を帽子のつばへもっていき　ズルズルとひきずりおろすように帽子をとる 髪がみだれている　ミンチン的本能のなせるわざが出て　なん	ミンチン「…………わ、私どもは……お父様を亡くされたセーラさんを……精一杯お世話して参りましたわ……。……セ、セーラさんも、その恩は心得てい

	とかとりつくろおうとする		るはず……」
132	カーマイケル　後に手を組んで クリスフォード　そのままじっ としている		カーマイケル「……でしょうかな……」
133	ミンチン　不安がよぎる		ミンチン「……!」
134	クリスフォード　静かに眼を開 く　少し間があって　話す 身を前に乗り出して　立つ　画 面　クリスフォードの体で一杯 になる		クリスフォード「では、御自分でお確めになら れるがよかろう……」 S・E　（キシ……ギッ!!……）
135	出てくるミンチン　続いて杖に すがったクリスフォードを抱く ように出てゆくカーマイケル ミンチン　はっと止り見上げて いる		
136	茫然と見上げるミンチンとクリ スフォードを抱えるカーマイケ ル――満足げに見上げている		

137	階段を下りてくるセーラのスカート		
138	ミンチン　さらに上を見る		
139	純白のドレスをＰＡＮ・ＵＰ		
140	胸おしあてていた帽子を強く握る　つぶれる帽子		
141	ミンチン　茫然と見つめている		ミンチン「……!」
142	階段をおりてくるセーラのシルエット　手前にくると明確になる		ミンチン「……!!!」
143	いまにも目をまわしそうなミンチンの眼		ミンチン「……セ……セーラ……」
144	髪からＰＡＮする　ＰＡＮ終ってから優しく気高く答える		セーラ「……はい……院長先生……」

145	胸もとのダイヤの飾り　大きく ゆれて手前へおりてくる		
146	ミンチン一瞬ビクッとなって タジタジと後へ　もうまっすぐ セーラの方に向いていられず 顔だけ向けて		ミンチン「……!」
147	美しい光を背に　立っているセ ーラ　ドナルドとジャネットが 下りてくる		
148	セーラの後で止る二人 他の人達それぞれセーラを守る ように　まわりを囲み　止る		
149	ミンチン　完全に圧倒され 急に力がぬける ガクッとなる		ミンチン「ダ……ダイヤモンドプリンセス……」
150A	力なく床にひざをつくミンチン		ミンチン「……」
150B	カーマイケルとクリスフォード		

	完勝の微笑をかわす	カーマイケル・クリスフォード「……」
150C	ホール全景　小さなミンチン	
151	雪の降るミンチン学院の玄関 郵便配達夫がノッカーを叩いている　叩き終り手に息を吹きかける　足踏を始める	配達夫「フフ……フフフー！」
152	足踏をする足 扉開いていく　足止り　扉の方向く	
153	扉開くとベッキーが立っている ベッキー　首をすぼめて寒い仕草　差し出された手紙を受け取る	ベッキー「雪の中……御苦労様です……」
154	見送って　扉をしめるベッキー 振り向いて手前を見る 手紙を示して	ベッキー「あの……」
155	廊下を歩くアメリア　止り手紙	ベッキー(off)「お手紙でございます」

	を見る　生徒達現れる 手前から奥へ行くベッキー		アメリア「まあ、誰れにかしら……?」 ベッキー（背中）「ええ……と、あ……セーラさんにです!」
156	教室から出てく生徒たち 生徒達　顔を見合わす ベッキー来てアメリアに手紙を渡す		アメリア「えッ! セーラさんに?」
157	手紙は破れよごれている　驚き眺め　やぶれた封筒のフタが半分はあけられる		アメリア「……インドのボンベイ警察から……」
158	えっとなるベッキー　顔を見合わせ囁き合う生徒たち		ダイアナ「ケイサツって……何かしら……」 「（アドリブ）インドのよ……いない間に何か」（等）
159	向き合うガートルードとジェシー		ガートルード「何かあったのかしら……」 ジェシー「……セーラのことだもの当然よ……」
160	手前のロッティ　憤として二人の方へ行き　手で二人を叩き乍ら		ロッティ「ち、違うもん、セーラママ、いけない事なんかしてないもん!」

161	ラビニア　乗り出して		ラビニア「ね……アメリア先生……読んでみたら?!」 アメリア「だ、だめよ！　……ひとの手紙を勝手に読むなんて……いけない事よ……」
162	真険な顔をしてアメリアを見つめながら話すラビニア　唖然とした表情で見つめるアーメンガード		ラビニア「……でも……セーラは、お隣りに行ったままだし……ケイサツから大事な用事だった……
163	不安な表情になり大きく唾液をのみこんで　手紙をおそるおそる見る		（背中）としたら……」
164	アメリア　困惑の態 じっとアメリアを見つめるラビニア　にやりとする ラビニアの方を見るアメリア その途端　真顔になり頷くラビニア		アメリア「……う〜〜ん」 アメリア「そ……そうーねーえ……」
165A	心配気に周囲を囲む生徒達 見回すアメリア		アメリア「……困ったわね……」

165B	困った表情のアーメンガードとドルシア　口許に笑いを浮べているラビニア		
166	アメリア，囲む生徒を眺め乍ら一人一人に同意を求めるように頷き見て破れた所から慎重に手紙を出す		アメリア「……それじゃ、悪いけど私が読まして頂く事に……」
167	見つめるラビニア　満足げな表情　口唇を噛み口惜しそうに見つめるベッキー		
168	封筒から慎重に手紙を出していくアメリア　好奇心丸出しの目付　とり出した手紙を左右の生徒に一緒に見るのよ　と言うように　手紙をひろげ見始める		
169	かたずをのんで見守る生徒と拳をかためて怒った顔で見つめるロッティ　はっとなる一同		アメリア(off)「……まあ、〜

170	左右を見ながら がやがやとざわめく生徒たち アーメンガード一人は怒った顔で左右を眺め回す	(on) 〜これは、セーラさんがインドの警察に送った、問い合せのお手紙の返事だわ」
171	ざわざわと囁き合う生徒達	
172	ベッキー　手を握り　怒りに震えている 一同　アメリアを注目する	アメリア(off)「聞いて……！　皆さん！」
173	左右を見ながら手紙を示して読み始める	アメリア「……セーラさんは、亡くなったお父様の事を調べようとしていたらしいわ ……以上、ラルフ・クルー氏が奥地のダイヤモンド鉱山で、熱病のため急死したのは事実である、〜
174	口唇をかみしめると怒りをこらえているベッキー	(off) が、争われていた同氏への債権は、共同経営者のクリスフォード氏の穴埋に依り、〜
175	怒りに震えているロッティ	裁判所は破産宣告を取消し、同時に有

		望な鉱脈を発見した同鉱山は、 〜
176	怒った顔で聞きいるアーメンガード	目下、素晴らしい業績をあげつつある 模様。 〜
177	よむアメリア よみおわり わずかに苦笑の表情で見回すアメリア	(on) なお、クリスフォード氏は後継ぎの消 息を探すべく、現在、イギリス本国に 帰国中なり……」
178	にがむしを嚙んだような顔になって行くラビニア　胸の前で手を合せ喜びの顔になっていくアーメンガード	
179	不満気な顔でジェシィと顔を見合わせるガートルード クリステル　リンダにっこりとする　はっとなりベッキーの方を見る一同	ベッキー(off)「おとなりの、 〜
180	叫ぶベッキー	(off) 方でございます!!　クリスフォード様

			と仰言やるのは……〜
181	ベッキーを見つめる一同		（背中）おとなりの御主人様でございます！」
182	ほっとして大きくためいきをつくベッキー		
183	クリスフォード家の石段をよろよろと出てくるミンチン　足が力なく踏み出され　つま先で下に落される雪　降りたつま先が又　雪をけり落すがよろける		
184	力なく左右にゆれるミンチン　敗北したくやしさに目は据り怒った表情になっている		
185	よろめき乍ら通りへ歩くミンチン　通りに出て行く		
186	ふらふらとしていたが　止る　力ないミンチンの表情　顔にふ		

	りかかる雪　目鏡に降った雪が とけて流れる		
187	止まっていたミンチン　学校の 方へ歩き始める すべってよろめくミンチン		
188	倒れていくミンチン		
189	手摺りに手がかかる 手摺りの上に積った雪が落ちる 手が手摺りにかかり　つかんだ かに見えたが体重を支えられず すべってはなれていく手		
190	ひざをつき　がくっと倒れる		
191	雪の路上に倒れる 顔を雪面にたたきつけ　飛ぶ帽 子　ずれ上るメガネ ポトンと雪の上におちるメガネ		
192	雪をかくように引かれていく手		

193	おき上っていくミンチン　鼻からはずれたメガネがブラついている		
194	足をひきずり起き上っていくミンチン		
195	はずれたメガネ　口惜しそうな顔をして起き上り前の方をじっとにらむ		
196	雪の降る街　車も人もいないのである!!　ころんでも倒れても助ける人がいないのである　こういう時に普段の行為がものいうものである		
197	じっとうずくまっているミンチン　背后にも車も人も通らない　起き上っていくミンチン		
198	髪は乱れ眼鏡はずり曲っている　雪が肩や髪の毛を白くしている		

199	路上にころがった帽子　手前からミンチン　よろめき歩いていく		
200	扉　開いてくる　外に見えるミンチンの姿　家の中にチラホラと雪が舞い込む		アメリア（背中）「まあー！ 〜 お……おねえさま……！」
201	驚き見るアメリア ずり下りた眼鏡　ゆがんだ顔でアメリアを見る　気力をふりしぼって　こらそこをどけと言わんばかりにアメリアの肩に手をかけ　押しどけて中へ入ってくるミンチン		
202	飛ばされるアメリア　壁によりかかり手で支えるミンチン　起き上るミンチン（口惜しいわ！） 驚き　身を立て直し見るアメリア		
203	シーザーが見つめている		S・E（扉の閉まる音）

カット	内容		台詞
204	壁によりかかっているミンチン　扉からミンチンの後に来て支えるアメリア ジロリとアメリアを見るミンチン　アメリア　眼鏡を手で元にもどし直す　ミンチン我に返ってアメリアを確認する　何かを訴えかけようとする　口をパクパクさせるがアメリア心配気に抱きかかえ懸命にミンチンの云う事を理解しようとするが判らない　柔和な顔をして何回も頷き手前に歩き出す		アメリア「おねえさま……」
205	アメリア　ミンチンの方を見つめているシーザー　アメリアに抱きかかえられるミンチン　シーザーの前を通っていく シーザー見送る		
206	見送るシーザー　やにわにミンチンの足許にかみつく		

207	ミンチンの叫び		ミンチン「キャッ!!」
208	あわてて支えるアメリア　逃げるシーザー		
209	大きく溜息をつくミンチンを心配気に見守るアメリア　がっくりとアメリアの腕の中に倒れこむミンチン		
210	廊下の角からのぞくシーザー		シーザー「ニャーオ」
211	尾を振っているシーザー　ミンチンを抱きかかえ叫ぶアメリア		アメリア「ジェームス! モーリー!」
212	三階のミンチンの居間の扉が開きジェームスとモーリー後退りで出てくる　モーリーの手にしたミンチンのコートを見て二人顔を見合せる　階段の方へ向う　続いてベッキーも出て来て扉をしめる		

213	上を見上げている生徒たち　ジェームス　モーリーが降りて来る		S・E（足音）
214	ベッキーが踊り場に降りて来て上を見上げ　下を見て壁ぎわに身をよせる　ジェシィとガートルードが上を見ながら昇って来る		
215	三階廊下　ジェシィ　ガートルードが顔を出す　続いてラビニアも来て扉の方を見る三人		
216	外（隣の方）を見ているアメリア　振り返るアメリア　びっくりしている		アメリア「……では……お隣りの、あの独身の御主人が、〜セーラさんを探していた億万長者のダイヤモンド鉱山主……」
217	じっとうつむいているミンチンを見つめるアメリア　弱々しく頷くミンチン　アメリアの手が堅く握られていく		ミンチン「そ……そうなのよ……アメリア、信じられないでしょうけど、本当だったのよ……」

218	スカートを握りしめるミンチン		ミンチン(off)「……私達は、せっかく手の中に掴んでいた宝石を……〜
219	アメリアから目を離してうつむいていくミンチン　頭を抱え口唇をかみ絶句する		(on) そうとも知らずに……二度と手の届かないところへ……手離してしまったのよ……!!」
220	手を握りしめ宙を仰ぎ嘆くアメリア		アメリア「あ……なんて云うことを……」
221	宙を仰ぐアメリアとうなだれているミンチン		
222	頭を抱え込んでいるミンチンの前を口惜しい表情のアメリアがイライラとした感じで歩いていく		
223	スカートを握りしめ歩くアメリア　FOLLOW		
224	頭をかかえているミンチン　窓の外には雪が降っている		

225	テーブルの前で止るアメリア スカートを握った手が震える		
226	震える拳と震える口唇ぐっとかみしめられる口唇　手が下へ		アメリア「う――!!」
227	手がテーブルを叩く　ぎゅっと握りしめられるこぶし PAN・UP　口惜しさにゆがむ口唇		アメリア「……う……そうよ……お姉様のせいよ! ……お姉様がバカだったのよ……!」
228	ヒステリックなアメリアの叫び 茫然と顔を上げるミンチン ベッド手すりに寄り 悲しそうな顔でアメリアを見るミンチン		アメリア「……お姉様がすべてをぶちこわしてしまったのよ……!!」 ミンチン「ア……アメリア……!　……なにを云い出すのよ……」
229	振り返るアメリア　キッとなった顔でにらむ		アメリア「……なにを云い出すですって……?」
230	いつものミンチンとちがうたよりなげに見つめ　力なげにうなだれる		

231	うなだれているミンチンをじっと睨むアメリア　ゆっくりと向き直る　スカートを握りしめる	
232	力なくうなだれているミンチン　手はベッドのふちをつかんでいるが力ない　ぎゅっとスカートをにぎると同時にミンチンにつかつかと近づくアメリア	アメリア「……いいこと……私はお姉様のように利巧者じゃないし、 〜 お姉様を怒らせるのが怖いから、今までロクにものも云わないで来たんだわ……！　でも、もう違うわ、なんでも云うわよ……!!」
233	首を左右に振り口唇をかみしめるアメリア ぐっとにらむ	
234	力なくうつむいていたミンチン　ゆっくりと顔をあげる	ミンチン「……ア……アメリア……」
235	睨んで見おろすアメリア	
236	踊り場　アーメンガードのスカートにつかまり見上げている　ロッティとジニファー　外は降	

	り続く雪		
237	扉に耳をよせているジェシィとガートルード　わきに立つラビニア		
238	うなだれるミンチンをじっと見下ろし睨むアメリア 外は降り続く雪		
239	睨むアメリア		アメリア「……本当はね、私、よく思ったものよ……お姉様がセーラ・クルーに、あんなにつらく当らなければいいのにって…… 〜 もっとましな洋服を着せてあげて、もっと人並みな暮しをさせてあげればいいのにって…… 〜 だって、あの子は、服も食物もひどすぎたし……働かされすぎてたんですもの!!」
240	がみがみとヒステリックに言うアメリア　うなだれているミンチン		
241	スカートの上で手を握りしめこねるミンチン　口惜しい表情である　ゆがむ口唇が震える アメリア寄ってくる　アメリア		

カット	内容		台詞
	を見上げるミンチン		
242	口惜しそうな顔で見上げるミンチン ギクッとなるミンチン		ミンチン「……アメリア……この私に……よくもそんな事が……」 アメリア(off)「お姉さまは、黙って!!」
243	ドンと叩くようにベッドのふちをつかむアメリアの手		
244	クッと顔をつきつけるアメリア		アメリア「……そうよ! いいますとも……!」
245	顔をミンチンに押しつけるようにして怒鳴るアメリア 後退していくミンチン　唖然とした表情		アメリア「……どうして云えるのか、自分でも判らない位よ!」
246	喰いつくようにミンチンに迫るアメリア		アメリア「……あの子は……セーラ・クルーはとてもいい子だったわ。……だから、もし親切にしてあげれば……ちゃんとそれに…… ～ むくいてくれたハズよ……!! でも、お姉様は…… ～
247	逃げるミンチン		

248	狂気に充ちたアメリア怒鳴る		〜親切のカケラも示さなかったわ……！ ……あの子は、お姉様には賢こすぎたわ……！」
249	ミンチン　苦しそうな表情でたじたじとなりながら		アメリア「……お姉様が、あの子を嫌ってたのは、そのせいだったのよ……!!」 ミンチン「……ア……アメリア……」
250	じっと見つめ睨んでいたアメリア　フンといった表情で起き上る　口惜しい表情のアメリア　横を向き宙を見つめ口をへの字に引き緊める		アメリア「……お陰で私たちは、取り返しのつかない宝を逃がしてしまったんだわ…」
251	噴然とした表情で宙を睨むアメリア　震える唇と眉　きっとなって前に進むアメリア　見送っていたが力なくうつむくミンチン		
252	ダンロに手をかけ震えているアメリア		アメリア「う……うう……あの子の事だけじゃないわ……！」〜

No.	画面		台詞
253	いかり狂う表情のアメリア		アメリア「この噂は生徒達の口から……きっと親たちに伝えられるわ……！ お姉様のやり口を知った親たちは、次次に自分の子供たちを…… この学院から引取りはじめるでしょうよ！」
254	うつむいている力ないミンチン カット尻でくるりと振り返るアメリア		
255	振り返り　怒り狂うアメリア 宙を仰ぎスカートを握りしめる （くやしいわっ…どうしてくれるのよ――お姉さん）		
256	うつむいたままのミンチン　ドタドタとスカートを握りしめたアメリアが前を通過して行く 目と眉がじわりと動くミンチン		アメリア(off)「挙句……噂は市長夫人にまで伝わって……」
257	狂気じみて見えるアメリアの動き　頭をかかえこみ　くるりと振り返る　止るアメリア		アメリア「この学院は、誰も寄りつかない、おばけ屋敷に……！」 ミンチン(off)「や……やめて――！
258	ベッドにどうとしがみつきアメリアを仰ぎ見るミンチン　じっ		(off)　アメリア!!　た、た……たのむから、やめて頂戴！……私が……私バカだっ

	と見つめていたが突伏してしまう		たのよ……！」
259	茫然と見つめているアメリア		ミンチン(off)「うう……うう……!!」
260	ベッドに突伏して泣くミンチン		ミンチン「ウウウ……ウ……」
261	突伏したポーズのミンチン		
262	茫然と見つめ　ゆっくりと手をおろすアメリア　T・U		
263	ガートルード　ジェシー　耳をはなして二人で顔を見合せてラビニアを見る　ラビニア　口許に笑が浮び　ゆっくりと目をそらす　怪げんな表情でラビニアを見る二人		
364	顔を見合わす三人　ロッティ　アーメンガード　ジェニファー		
365	降り続く雪　家々の灯はほとん		

	ど消えて　ガス灯の火がゆれている	
266	ミンチンの帽子　半ば雪に埋まっている	
267	暗い三階の廊下　手燭をもったベッキーが昇ってくる 昇り終り止るベッキー	
268	淋しそうな表情で手にした燭台を見つめている 窓外は雪が降っている　目線を前方に移していくベッキー 手燭を前へかざす	
269	暗い廊下	
270	じっと前方を見ていたが　手にした手燭を見る　T・U うるんでくる目……泪である 口唇をかみ　じっとこらえようとするが一条の泪がつつーと流	ベッキー「……お嬢さま。……ここへはもう帰ってこないんですね……え……」

	れる		
271	ゆれる手燭の炎　流れおちる ローソク		S・E（じ……じっ、じ……じ）
272	うつむき　泪一杯のベッキー 力なく手前に歩き出す		
273	暗い廊下を奥へいくベッキー		
274	扉開いて現れるベッキー 力なく階段を昇り始める		
275	泪を流しながら昇るベッキー FOLLOW		
276	光がやって来る ベッキーはっとなって下を見て 止る		
277	扉のすきまから灯がもれている		
278	じっと考えていたが　前に出て		

	いく		
279	ノブに手をかけ　一寸考えるが ゆっくり開けていくベッキー		
280	開いていく扉　窺くように内を 見るベッキー　アッとなる		
281	ラムダスがインド風のオジギを する　テーブルの上　食器や燭 台		
282	おどろいて　入ってくる		ベッキー「……!!　……ラムダスさん!!」
283	起き上るラムダス ベッキー入ってくる ラムダス　にっこりとしてテー ブルの方を示す　驚きテーブル を見るベッキー		S・E（扉のしまる音）
284	テーブルの上の豪華な食事 キラキラと輝いている　前に出 て見るベッキー　目をくりくり		

	して見つめ　テーブルに手燭を置く		ベッキー「……まア……!!」
285	キラキラと輝く食器		
286	喜びのベッキー　眺め回す		
288	ラムダスを見るベッキー 大きく頷くラムダス		ラムダス「……セーラお嬢様からのお心づかいです」 ベッキー「では……お嬢様は、私のこと……」 ラムダス「無論、お忘れの筈はありません……」
289	感動と喜びのベッキー		
290	ラムダス微笑して大きく頷き 手紙を差し出す 受け取るベッキー		ラムダス「お嬢様は、貴方様にこのお手紙を読まれるようにと……」
291	手紙を見るベッキー 手紙をひしと胸に抱きしめる 光の輪がベッキーを覆っていく F・O		ベッキー「……まあー……!! セーラお嬢様………!!」

〈END〉